

News & Information

第17回

組込みシステム開発技術展(ESEC2014)に出展

当社は、2014年5月14日(水)～16日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催される「第17回 組込みシステム開発技術展(ESEC2014)」に出展します。

組込みシステムにおいて高度化する情報機器向け組込みシステムに、LSI設計・プラットフォームからアプリケーション開発・ライセンス・サービスなど、最新のソリューションを提供します。

展示内容は次のとおりです。

- ー「からだみらい」安全運転見守りサービス
センサーによるバイタル情報と自動車からの走行データを分析し、ドライバーの疲労や危険運転を検知し音声などで休憩のアドバイスを案内
- ーヘアカラーシミュレータ
美容技術の一つである「ヘアカラー」に関するシミュレートができるソフトウェア。従来のシミュレーションソフトに比べ、光の当たり具合を補正し、撮影した画像の髪を本物らしい質感で表示可能
- ーMiracast(Wi-Fi Display)
Miracastで、動画や音楽コンテンツを無線伝送
- ーコンテンツ保護対応アプリケーション(SeeQVault)
ハイビジョンで録画した番組をスマートフォン、タブレットで再生可能
- ーオープンソース・ライセンス管理(Black Duck Suite)
オープンソースに特有の管理、コンプライアンスの課題を解決
- ーモデルベース開発ソリューション (M-RADSHIPS)
組込み製品開発にMATLAB/Simulinkを導入し、信頼性を高める開発プロセスによるソリューションを提供
- ーディスコンLSI再生サービス

ディスコン(製造終了)LSIの延命を行う作り替えサービスと、LSI解析サービスを提供

TECHNO-FRONTIER 2014 に出展

当社は、2014年7月23日(水)～25日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催される「TECHNO-FRONTIER 2014」に出展します。

本展示会は、「ものづくり」を支える最新の要素技術と、開発設計・生産技術のプロフェッショナルが集結し、課題解決の糸口をさぐり、未来を切り開く場となる展示会です。

当社は東芝グループブースに、本誌に記載のディスコンLSI再生サービス、LSI解析サービスを出展します。

「高齢者住宅フェア」2014in東京に出展

当社は、2014年7月29日(火)～30日(水)の2日間、東京ビッグサイト(西3・4ホール)で開催される高齢者住宅フェアに次の2つの介護ソリューションを出展します。

●(居宅向け/施設向け)見守りソリューション

居宅向け見守りソリューションは、安価な運用コストで独居老人の孤立死を防止し、早期発見により不動産価値を守ります。また、施設向け見守りソリューションは、入居者がベッドから降りる前に通報し転倒転落事故を防ぐとともに、センサーに振り回されている看護師の負担を軽減します。

●新全老健版ケアマネジメントシステム(R4システム) 準拠の R4Navi

本システムは、「公益社団法人全国老人保健施設協会 認証取得 第一号」として認証され、WHOのICF国際生活機能分類にそって介護を必要とする高齢者の在宅復帰を支援するソリューションです。

Next Wave

センサーの個体認証技術

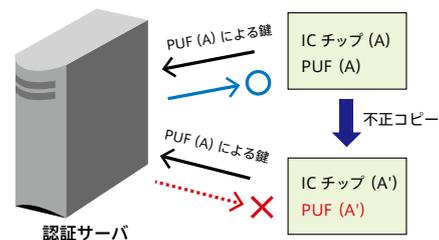
最近、センサーなどの機器同士がネットワークを介して自動的に最適な制御を実現するM2M(Machine to Machine)が注目されています。移動車両のモニタリング、電力・水道のスマートメーター、RFIDチップによる在庫管理から、ヘルスケア、セキュリティなどさまざまな分野でM2Mが活用されています。

M2Mではセンサー機器が大きな役割を持ちますが、使用されるセンサーの数が飛躍的に増えるにつれて、センサーの個体をユニークに識別できることが必要になってきます。これを実現する新しい技術として、ICチップ固有の物理的特性を指紋のように利用し、同一の入力から装置固有の異なる出力を導くPUF(Physically Unclonable Function)技術があります。

PUF技術を利用することで、従来の大掛かりな鍵管理の仕組みを使わなくても、RFIDチップなどの模造・偽造を防ぐことが可能となります。例えば、図のようにICチップから認証サーバへ問合せを行うとき、通常は、鍵生成のもとにしたPUFと、ICチップの物理的特性によるPUFの値

が合致することにより認証されますが、偽造ICチップでは、物理的特性が異なるためPUFの値が合致せず認証で拒否されます。

スマートコミュニティが進んでいく中で、M2Mのセキュリティはますます重要になってきます。PUF技術は、個体認証のみならずM2M通信の暗号化の鍵としても活用でき、今後M2Mと共に導入が進んでいきそうです。(博)



※ ICチップ(A')は、鍵生成のもとにしたPUF(A)が、物理的特性PUF(A')と一致していないため、偽造ICチップであることが分かる